

1. 目撃、被害、捕獲の状況

これまでのクマの目撃件数（被害、痕跡、捕獲件数を含む）は6、7月にやや多かった。一方、捕獲数は、5～9月は8～10頭と多かった。このうち、錯誤捕獲が約80%を占めた（図1）。6～9月にニホンミツバチの蜜蝋等への食害、無人の民宿の屋根裏に営巣していたキイロスズメバチの巣を食べるために壁を壊した被害、ブドウ園での食害があったが、被害発生は比較的少なかった。また、大量出没年にみられるクマが農作物等に執着して、被害が継続する状況はなかった。

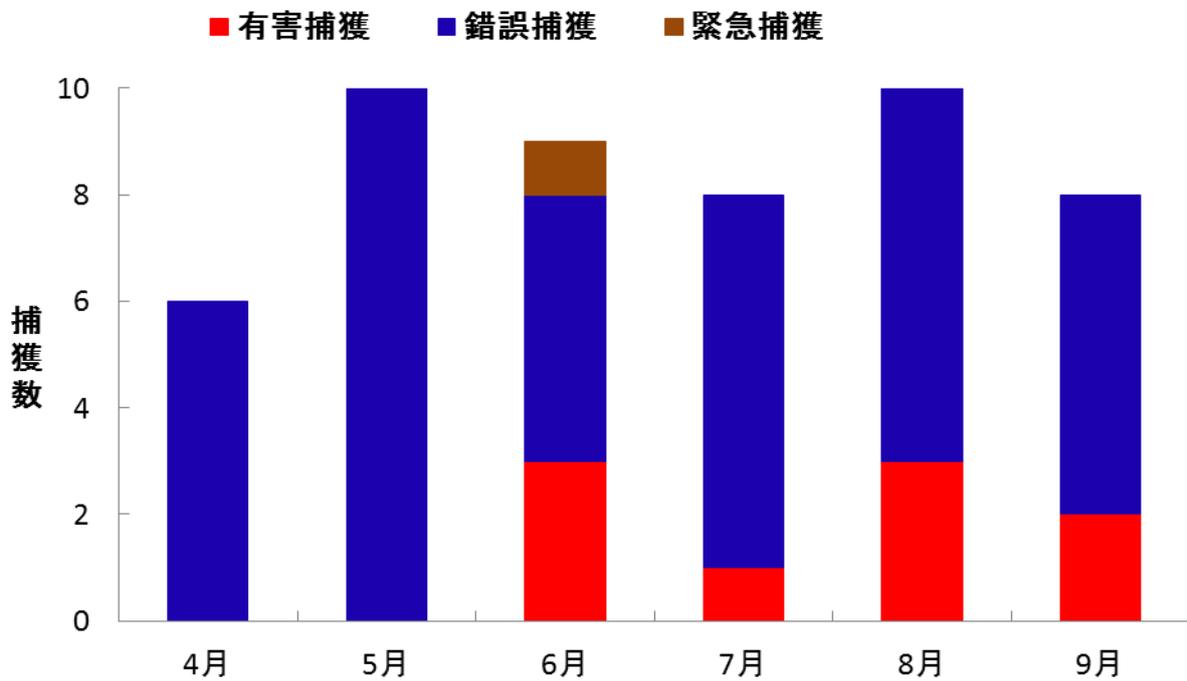


図1 2015年4～9月の捕獲区分別の捕獲数

2. 堅果類等の豊凶の状況

クマノミズキ：豊作

シバグリ：豊作

コナラ：並作

ミズナラ：並作

ブナ（西部地域）：豊作

ブナ（東部地域）：並作

アラカシ（西部地域）：並作

3. 今後の出没予測

9月はクマノミズキなどが多く実ったために被害は少なかったと考えられる。10月以降もシバグリ、コナラ、ミズナラなどが実ると予想されるので、人里への出没や被害発生は増加しないと予測する。

広島県と山口県の担当者への聞き取りでも、出没状況は本県と同様に9月は少なかった。

今後、春期からの捕獲個体の年齢（放獣個体も含む）、胃内容物、栄養状態などを調べて、6～9月の出没との関連を検討する予定である。

なお、西中国地域全体での堅果類等の豊凶の評価は、現在山口県農林総合センターでデータを集計して分析中である。